

令和6年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞者

[個人]・・・2名

くまがえ のぶたか
熊谷 信孝たがわぐんふくちまち
(福岡県田川郡福智町)ふくだ たまこ
福田 珠子おうめし
(東京都青梅市)

[団体]・・・11団体

ふかやし
深谷市ふかやし
(埼玉県深谷市)みょうこうさとやまほぜん
妙高里山保全クラブみょうこうし
(新潟県妙高市)にんていとくていひ えいりかつどうほうじん もり かぜ
認定特定非営利活動法人 森林の風よっかいちし
(三重県四日市市)いっばんしゃだんほうじん ききと
一般社団法人 kikitoひがしおうみし
(滋賀県東近江市)くらやじちかい
蔵屋自治会にたぐんおくいずもちょう
(島根県仁多郡奥出雲町)とくていひ えいりかつどうほうじん ひと き かい
特定非営利活動法人 ひろしま人と樹の会ひろしまし
(広島県広島市)かんきょうきょうせい もり
環境共生の森サポート・ボランティアふくおかし
(福岡県福岡市)とくていひ えいりかつどうほうじん ゆめまつばら かい
特定非営利活動法人はかた夢松原の会ふくおかし
(福岡県福岡市)とくていひ えいりかつどうほうじん きやま
特定非営利活動法人 かいろう基山みやきぐんきやまちょう
(佐賀県三養基郡基山町)くまもとしりつにしぼるしょうがっこう
熊本市立西原小学校くまもとし
(熊本県熊本市)さんわしゅるいかぶしがいしゃ あじむぶどうしゅこうぼう
三和酒類株式会社 安心院葡萄酒工房うさし
(大分県宇佐市)

[個人]

くまがえ のぶたか
熊谷 信孝

たがわぐんふくちまち
福岡県田川郡福智町

<功績の概要>

同氏は、高等学校の理科教諭として在職中から、地域の里山で動植物の調査や植物の再生・保全活動を実施してきた。関連書籍の出版や、住民を対象とした観察会の開催・指導にも取り組み、地域の自然環境の保全や緑化意識の醸成に貢献している。

「福智町」の町名の由来ともなった福智山^{ふくちやま}では、枯死寸前であった「虎尾桜」^{とらおざくら}と呼ばれる桜の木が、県内での自生が希なエドヒガンザクラであることを明らかにした。同氏らの尽力により樹勢を回復したこの桜は、平成12年に福智町の天然記念物に指定され、町木としても広く親しまれており、地域ぐるみの保全活動が続けられている。また、香春岳^{かわらだけ}と英彦山^{ひこさん}では、絶滅が危惧されるオキナグサの再生保全活動に取り組むとともに、平成3年の台風により甚大な被害を受けた英彦山のブナ林再生のために、近隣の母樹から種子を採取・育苗し、多くのボランティアに技術的指導を行いながら植栽を継続している。

さらに、これらの活動に加え、動植物の調査結果をまとめた多数の書籍を出版するとともに、県の環境教育指導員として住民を対象とした観察会の講師を務めるなど、一般市民への普及啓発にも尽力している。

同氏は、丹念な調査と保護活動により、地域の里山の保全に寄与するとともに、調査結果の公表や教育指導を通じて広く緑化意識の醸成に貢献し、その功績は高く評価されるものである。

[個人]

ふくだ たまこ
福田 珠子

おうめし
東京都青梅市

<功績の概要>

同氏は、平成 10 年から夫の家業である林業を継ぎ、森林経営に取り組んできた。森林内でのこども向け体験教室や、都市住民向けの市民講座等を継続的に実施するほか、地元女性林業研究グループの会長等を歴任し、地域の森林づくりや緑化意識の醸成に貢献している。

特に、森林を活かした保育に早くから着目し、山での活動を通じてこどもの心の成長を図る「自然労作保育」として、保育園児や小学生を対象に山歩きや木工作、間伐体験等を約 20 年にわたり継続して実施し、地域の森林環境教育や木育^{もくいく}を牽引してきた。

また、所属する東京都の女性林業研究グループでは、森で採集した材料を使って草木染の体験講座を開催するなど、一般市民の森林への関心を高める活動を行うとともに、同グループの会長や全国組織の女性会議会長等を歴任し、その活動に貢献している。

さらに、平成 13 年には、武蔵野市及び公益財団法人東京都農林水産振興財団と協定を結び、所有林を自然体験フィールド「ふたまたお^{ふたまたお}・武蔵野市民の森」として提供し、市が主催する「森の市民講座」を運営・指導するなど、緑化に関する行政と連携した普及啓発にも積極的に取り組んでいる。

同氏は、その先見性により、こどもを対象とした森林環境教育に早期から取り組むとともに、講座等を通じて広く市民の緑化意識の醸成に貢献し、その活動は高く評価されるものである。

ふかやし
深谷市

所在地 埼玉県^{ふかやし}深谷市
代表者 市長 小島^{こじま}進^{すけ}

<功績の概要>

同市は、花きの生産が盛んであることから、平成 16 年に「深谷市ガーデンシティふかや構想」を策定し、ガーデニングをキーワードに市民参加のまちづくりを実践している。

毎年 4 月には、市民ボランティア等の協力を得て「花フェスタ」を開催し、ガーデニング教室やコンテスト等を行うとともに、会場を地元の花き農家が生産した花で装飾するなど、農家と連携して実施している。また、個人宅の庭を公開する「オープンガーデンフェスタ」も同時開催し、両イベントで 6 万人以上の来場者を迎えるなど、緑を活かした地域活性化に取り組んでいる。

また、市民や学校、事業者などが、特定の公園や道路、緑地等の公共空間の「里親」となり、愛情を持って緑化・美化活動を行う「アダプトプログラム」を平成 17 年から導入した。現在では 26 団体・約 1,000 人が市の支援を得ながら独自の活動を展開し、市民参加型の花のまちづくりに成功している。

さらに、「学校花はなプラン」活動として、地域住民等の協力を得て、幼稚園や小中学校の花壇の整備など、^{はないく}花育の活動を推進している。平成 21 年には、市民の憩いの場として、森や花壇、畑からなる「ふかや緑の王国」を開園し、ボランティアの協力を得ながら、幅広い世代が花や緑に親しむまちづくりを進めている。

同市は、市民の緑化意識を育むとともに、協働による花と緑のまちづくりを実現し、その功績は高く評価されるものである。

みょうこうさとやまほぜん
妙高里山保全クラブ

所在地 新潟県^{みょうこうし}妙高市
代表者 会長 ^{おきかわ}沖川 ^{しょうへい}庄平

<功績の概要>

同団体は、「市民の憩える里山モデル林」を目指して、地域の雑木林や森林公園の整備を実施することにより、里山の再生・保全を図ってきた。整備した里山で保育園児や小学生を対象に環境教育を行い、こどもが身近な森林に親しむ機会を提供し、緑化意識の醸成に貢献している。

妙高山麓^{こまるやま}の小丸山では、人の手が入らずに荒れていた雑木林の整備活動を実施してきた。投棄されたゴミの撤去や、繁茂していたクズ等の蔓切りを進めることで、林内に光や風が差し込み、林床にはササユリやキンラン等の花が見られるようになった。また、地元の保育園児とともにカタクリの苗を植えて増殖に取り組むなど、地域ぐるみの緑化・里山保全活動を実践している。

さらに、整備した森林において、園児を対象としたシイタケの駒打ち・収穫体験や地元小学校を対象とした森林教室等を実施し、里山の緑化や環境の保全に関する普及啓発に貢献している。

加えて、チェーンソーの安全操作講習等を実施し、会員の技術向上を図るなど、継続的に地域の里山を維持管理するための人材育成にも積極的に取り組んでいる。

同団体は、里山の再生により地域の価値を高めるだけでなく、こどもの緑化意識の向上や里山整備に関わる人材育成にも貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

[団 体]

にんていとくていひ えいりかつどうほうじん もり かぜ
認定特定非営利活動法人 森林の風

所 在 地 三重県^{よっかいちし}四日市市
代 表 者 会長 瀧口^{たきぐち} 邦夫^{くにお}

<功績の概要>

同団体は、「地域の森林の再生」を目指して、企業等と協定を結びながら、県北部を中心に約 100ha の森林で間伐・植栽等の整備を実施している。都市域の住民も巻き込みながら、年間約 180 日・参加者延べ 3,300 人を超える規模で活動し、緑化を推進している。

県が推進する「企業の森づくり制度」を活用して、地域内外の企業 10 社以上と連携して里山や人工林の整備を実施してきた。企業の力を地域の山に呼び込むことで緑化を推進するとともに、都市域の住民に山づくりに参加する機会を提供している。また、既存の森林の整備だけでなく、豊かな森林の再生を目指して、鈴鹿国定公園内のシカ食害被害地等での植樹にも取り組んでいる。

さらに、地元小学校で出前講座による森林教育を実施するほか、地域の障害者通所施設と連携してツツジの育苗に取り組み、山への植栽を指導するなど、緑化における「林福連携」を実践し、幅広い主体に緑と関わる機会を提供している。

加えて、「まちのきこり人養成講座」や専門家の指導による「レベルアップ講習会」を年間 20 日以上開催し、地域の森林を守り継ぐための人材育成にも貢献している。

同団体は、地域の森林再生に寄与するとともに、山づくりを通じて地域内外の交流を図ることで、広く緑化意識の醸成に貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

[団 体]

いっばんしゃだんほうじん ききと
一般社団法人 kikito

所在地 滋賀県^{ひがしおうみし}東近江市
代表者 代表理事 大林^{おおばやし} 恵子^{けいこ}

<功績の概要>

同団体は、森林所有者や林業事業体、建築士などの多様な構成員からなり、滋賀県湖東地域を中心に、間伐材の利用拡大や独自のCO₂吸収・固定認証等を通じて、緑化や地域材の安定供給体制づくり、森林の価値を高める普及啓発活動に取り組んでいる。

「びわ湖の森の間伐材買取事業」として、林内に放置されてきた間伐材を買い取るイベントを開催し、地元企業や木工職人と連携して間伐材をコピー用紙や文具等として商品化することで地域材需要を創出してきた。この事業は、森林所有者が山の価値を再認識する契機となるとともに、地元の社会福祉法人と連携して実施することで、就労困難者の社会復帰支援に貢献するなど、間伐材の利用を通じて地域に新たな繋がりを生んでいる。

また、独自の「CO₂吸収・固定認証制度」を整え、森林づくりや木材利用に取り組む企業等の活動を審査・認証し、森林の価値や木材利用への理解を促してきた。さらに、企業の森林づくりにコーディネーターとして協力するほか、「森づくり塾」や「建築塾」を開催し、森林整備や木造建築に携わる人材の育成にも取り組んできた。

同団体は、森林を、環境という観点で管理・保全するだけでなく、地域の経済循環に取り込むことで人の営みと結びつけ、間伐材利用の推進とともに広く緑化意識の醸成に貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

くらやじちかい
蔵屋自治会

所在地 島根県にたぐんおくいずもちょう仁多郡奥出雲町
代表者 代表 土居どい 薫かおる

<功績の概要>

同団体は、旧横田町（現：奥出雲町）の実施していた「花と緑のある里づくり」事業に呼応して、地区内を通る主要地方道横田多里線沿いを「蔵屋ツツジ&アジサイロード」として整備してきた。蔵屋地区は古くから行われてきた“たたら製鉄”により生み出された広大な棚田を有し、文化庁選定の文化的景観に指定された地域に含まれている。

平成5年から道路沿線にツツジやアジサイを100株以上植栽し、毎年春から秋にかけて、草刈り等の管理活動を実施している。平成13年には島根県が公共土木施設を対象としたボランティアを支援する制度である「ハートフルロードしまね」（平成21年に「ハートフルしまね」に改称）の認定を受け、行政とも連携しながら活動を継続している。

さらに、平成22年からは道路沿線2kmにわたり植栽帯にマリーゴールドやサルビア等の花苗を地域内の小学生や老人会と共同で毎年500株以上植栽し、除草、清掃等維持管理も協力して行うことで、道路の緑化・美化を積極的に推進している。毎年春から秋にかけて植栽した花々が咲き誇る時期には、訪れる人々の心を魅了するとともに、地域住民の世代間交流にも貢献している。

同団体は、地域の緑化に貢献するとともに、活動を通じて世代間交流や集落内のふれあいを図り、モデル的な環境美化・道づくり活動を展開し、その功績は高く評価されるものである。

[団 体]

とくていひえいりかつどうほうじん ひと き かい
特定非営利活動法人 ひろしま人と樹の会

所在地 広島県ひろしまし広島市
代表者 理事長 なかごし のぶかず 中越 信和

<功績の概要>

同団体は、「森を育て、人を育て、ボランティア精神を育てる」という活動理念のもと、平成4年から、所有者から依頼を受けた森林や森林公園等で活動を続けている。創立から1,400回を超える活動を実施し、延べ17万人以上が参加するなど、県内の緑化推進に大きく貢献している。会員が指導者となり講習会や技能研修を積極的に行い、緑化に関する知識や技術の普及啓発にも寄与している。

桜の名所として知られる安芸高田市あき たかたの土師ダム湖畔はしでは、約6,000本の桜の維持・保全・管理活動を行政と住民が協働で行う「桜守プロジェクト」に計画時から参画し活動してきた。また、県立森林公園では、植樹や下刈り、除間伐等育樹活動のほか、植樹イベントにおける指導等を実施している。さらに、国の史跡である広島市なかおだの「中小田古墳群」では、遺跡を守るため、地域の団体と協働して立木竹の伐採・チップ化を行う森林整備等にも取り組んでいる。

加えて、森づくり活動を行う個人や団体に安全技能講習を行う「ひろしま森づくり安全技術・技能推進協議会」の創立に尽力し、活動の安全性向上と森林整備を担う人材の育成指導にも貢献している。

同団体は、県内各地の森林整備のみならず、活動や講習会等を通じて人材育成を積極的に行うことで、持続的・広域的な緑化に貢献し、その功績は高く評価されるものである。

[団 体]

かんきょうきょうせい もり
環境共生の森サポート・ボランティア

所在地 福岡県ふくおかし福岡市
代表者 (代表者の設置なし)

<功績の概要>

同団体は、国営海の中道海浜公園において、「ゼロからの森づくり」をコンセプトに、草木の無かった造成地 23ha を「環境共生の森」として、植樹や環境学習活動に取り組み、公園の緑化及び来園者の緑化意識の醸成に貢献してきた。

平成 22 年の開園当初から、週 1 回の里山づくり等の活動に加え、環境学習活動の運営サポートを継続して行っている。市民に植樹指導を行いながら毎年約 2,000 本、累計約 28,000 本を植樹するとともに、延べ 16,000 人以上の参加者に、森林のもつ多面的機能や緑化推進の重要性を伝えてきた。50 年後の森林の姿を描きながら、近隣にあるしかのしま志賀島の自然植生をモデルに 20 樹種を選定し、植樹活動に取り組んでいる。毎年、市民と協働で下草刈り等の保育活動にも取り組み、健全な森林の育成を図るとともに、森づくりを通じた市民の交流を促進している。

また、植樹後の経過年数に応じた生物相の変化を活かし、「造成地に森ができるまでのガイドツアー」や、学校・親子向け体験プログラムを多数作成・実施し、幅広い世代の緑化意識の醸成に貢献している。さらに、近隣の水族館等と連携して希少水生生物の保全や自然観察イベント等の環境教育にも取り組んでいる。

同団体は、多くの市民や多様な主体との連携を深めながら植樹・環境学習活動を行うことで、緑化や緑化意識の醸成に貢献し、その功績は高く評価されるものである。

[団 体]

とくていひ えいり かつどうほうじん ゆめまつばら かい
特定非営利活動法人はかた夢松原の会

所 在 地 福岡県^{ふくおかし}福岡市
代 表 者 理事長 磯谷^{いそがい} 慶子^{けいこ}

< 功績の概要 >

同団体は、江戸時代に植えられ守られてきた博多湾岸の松原が都市化等により失われていく中で、昭和 62 年より、新たな埋立地に地域の企業、市民や行政等の協力を募りながら植樹活動を行い、白砂青松の景観を復元してきた。

これまでに、37 年間にわたって人工の海岸 2.5 km に約 55,000 本のクロマツの苗木を植樹してきた。成長した松原は、博多湾岸の美しい景観を形成するだけでなく、防風、防潮、防砂の効果を発揮している。クロマツの植栽計画の作成や必要な資金を募る募金活動は、地域の企業や市民、大学生等も巻き込みながら実施され、参加者の「まちづくり」への関心を高めるとともに、緑化意識の醸成に貢献してきた。現在は、造園業者や森林インストラクターによる安全指導のもと、植樹したクロマツの間伐・枝打ち・松葉かき等の育樹活動を継続的に行っている。

また、近年では、市民や学生に対して森林視察研修や環境教育を実施するなど活動の幅を広げるほか、筑後川上流のダム見学や上下流交流、日本各地の松原において活動する団体との交流など、緑化活動を通じた地域間交流にも取り組んでいる。

同団体は、多くの協力者を得ながら博多湾岸の松原を復元し、その後も継続して保育活動に取り組むことで、地域に新たな交流をも生み出しており、その功績は高く評価されるものである。

[団 体]

とくていひえいりかつどうほうじん きやま
特定非営利活動法人 かいろう基山

所在地 佐賀県みやきぐん基山町きやまちょう
代表者 代表理事 松原 まつばら 幸孝 ゆきたか

<功績の概要>

同団体は、「癒しの里山づくり～何度でも訪れたい緑と清流の森づくり」を目標に、地域社会への貢献を活動理念として、週5回・年間約200日以上活動し、侵入竹の伐採や体験活動の提供、竹の利活用など、里山における森林整備や資源循環に取り組んできた。

地域を流れる一級河川筑後川の支流である山下川やましたがわの源流部に侵入した竹林の伐採を推進するとともに、地元住民や一般市民、小・中・高生の参加を募り、広葉樹の植栽を行い、水源林の整備・管理に取り組んでいる。また、大学生・高校生を対象とした炭づくり体験や幼稚園への竹製おもちゃの提供等、竹を活かした取組を展開している。さらに、作業を安全に行うため、育林技術の講習会を実施し、森林ボランティアリーダーの育成を図るなど、若手の人材育成も実施している。

平成26年には一般財団法人セブン-イレブン記念財団と「佐賀セブンの森づくり」協定を締結し、企業との協働による緑化活動を推進している。5.4haの放置竹林を整備して森林を再生する活動では、伐採しチップ化した竹と、枯れ竹を活用した炭に木くずを混合し、佐賀牛の畜産農家で敷料として活用後、牛糞とともに堆肥化し、イチゴ農家などで肥料として利用している。

同団体は、地域の多様な主体と連携し、放置竹林の整備と森林の再生に取り組み、生み出された資源を循環させることで地域の活性化につなげており、その功績は高く評価されるものである。

くまもとしりつにしぼるしょうがっこう
熊本市立西原小学校

所 在 地 熊本県^{くまもとし}熊本市
代 表 者 校長 ^{しゅどう}首藤 ^{ひでき}英紀

<功績の概要>

同校は、開校時から、「一人一鉢活動」や学級園の緑化等を継続して実施するとともに、「緑化でこどもの心を耕そう」という願いのもと、地域と連携しながら花の栽培等を実践し、児童の緑化意識の醸成や地域交流に貢献してきた。

全児童が花壇や学級園の世話をする月2回のグリーントimeを継続して実施し、こどもが緑に親しむ機会を創出してきた。また、平成21年からは、授業を含め、地域のグリーンボランティアの協力を得ながら学校緑化を実施している。児童とボランティアが校舎の壁面を覆う緑のカーテンを共同して設置するなど、緑を通して地域ぐるみの交流が図られている。

学校に植える花苗は、前年度に採取した種からの「まごころ種まき」として、児童の手で育てている。植物が発芽、成長し、花が咲き、また種が実り、その種を育てるこの活動は、植物の生態の学習とともに、学年を越えた交流にもつながっている。

また、育てた苗を地域の保育園等に配布するなど、地域の緑化にも貢献しているほか、平成28年の熊本地震後には、ヒマワリの種を通じて、命の大切さや災害への備えの大切さを伝えるプロジェクトに参加するなど、花を通じて各地の震災被災地と交流を図り、活動の輪を広げている。

同校は、地域ぐるみで学校緑化に取り組むとともに、緑を通じて様々な交流を深めており、その功績は高く評価されるものである。

[団 体]

さんわしゅるいかぶしきがいしゃ あじむぶどうしゅこうぼう
三和酒類株式会社 安心院葡萄酒工房

所在地 大分県^{うさし}宇佐市
代表者 工房長 古屋^{ふるや} 浩二^{こうじ}

<功績の概要>

同工房は、創業時より「^{もり}杜の中のワイナリー」をコンセプトに、周辺環境と調和した樹木を植えるなど、敷地内に豊かな緑を整備している。工房を訪れる年間約8万人に、緑と親しむ機会を提供することで、緑化意識の醸成に貢献している。

敷地内にある散策路や緑に囲まれた広場、自然豊かな雑木林は、地域住民や観光客にとって、四季折々の自然を感じることで憩いの場となっている。春と秋には広場や雑木林でコンサートを開催するほか、地域の農産物を販売するイベントを開催するなど、緑地を活かして地域に根ざした活動を展開している。

また、秋には、地元の高校生を対象に、ブドウの収穫体験を含めたワインの製造・販売の一連の工程を学ぶ教室を開催するなど、地域の気候風土を活かした6次産業化を学ぶ機会を提供している。さらに、大分県農林水産研究指導センターとともに、新たなワイン用ブドウの品種開発に取り組むほか、栽培管理のデータ化を進め、より効率的で合理的な栽培管理を目指して研修を行うなど、ワイン造りを通じた地域振興にも寄与している。

同工房は、緑地や農園の活用により来訪者に緑と親しむ機会を提供するとともに、幅広く地域振興に貢献しており、その功績は高く評価されるものである。